

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

円安は賃金低下と認識すべき 玉木 林太郎 (国際金融情報センター理事長、元財務官)

- リーマンショック後に1ドル=100円を切り、大騒ぎになりました。輸出側の大企業には、円高は望ましくないでしょう。しかし資源などを輸入する会社にとって、円高は望ましいことです。それなのに、「円高は日本の輸出を妨げ国難である」と多くの人々が疑いもなく考えていることは不思議です。円高は輸出に不利なのは確かです。ですが、そのことは日本経済にとって圧倒的にマイナスだという主張は本当でしょうか。
- 日本は長期間デフレが続き、他国は多かれ少なかれインフレです。だから今、海外に行くと円の購買力が落ちたなど感じます。大企業や中小企業に限らず、円で給与をもらい、円資産を貯蓄する一般人も、円安が長く続くことは、自分の賃金や資産購買力が低下しているという認識をすべきでしょう。
- 日本の経済構造が老化し、国内に投資機会がなく、海外に資金が流出してしまう経済構造になっています。それを防ぐ構造改革が進んでいません。人口減少や脱炭素という難しい問題が日本にのしかかっているのに、真剣に向き合っていない。今取り組むべきは、来週の為替がどうなるかではありません。経済的な負け組が出るかもしれないけれど、構造改革を進める。それに真剣に取り組まないと、日本経済の凋落は止まりません。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2022年5月21日号)

幹部への活きた言葉

「習う」とは一体化すること

安田 登 (能楽師)

- 松尾芭蕉は「松の事は松に習へ 竹の事は竹に習へ」と言っていますが、松を詠もうと思ったら、松を観察するのではなく、松と一体化しなくてはいけない。これが「習う」の意味です。つまり、芭蕉はこの句「古池や蛙飛びこむ水のをと」の中で古池と一つになっていた。古池である彼自身の中に蛙が飛び込んできたので、蛙と直ぐに分かったのでしょう。
- これは世阿弥の「離見の見」という言葉とも通じるものがあります。役になり切る自分を、離れた場所から冷静に見ている別の自分とが同時に必要であり、俳句にもそれが言えると思います。

(参考:「致知」2022年8月号)

経営者のための危機管理

固定化は犯罪や不正を促進する

岡邊 健 (京都大学大学院教授)

- 組織は、その中の人間関係が濃密なほど意思疎通はしやすくなる。ただ、検査不正などの背景を見ると、人間関係は密接だが、閉じた社会で固定的なコミュニケーションしかない。固定化は犯罪や不正を促進する方向に作用する。そしてもう一つ最近の犯罪で不正で気になるのは、犯罪学で言う「中和の技術」が広がっていることだ。
- 罪を犯した者自身が自らの行為を合理化することだ。不正を行っても、それほど大きな被害をもたらしていないとして害を否定。そして非難してくる相手を否定することで、自らが正しいとする。さらに、法律を守るよりもっと大事にすべき価値があるといったことだ。中途採用を増やしたり、組織の風土・文化に柔軟性を持たせない、それが変わらなくなる。

(参考:「日経ビジネス」2022年6月20日号)

古典に学ぶ

武士的精神を養成

(解説) 昔の武士および上流の百姓町人は、その青年時代に多く漢学教育を受けたので、初めは小学とか孝経とか近思録とか、更に進んでは論語、大学、孟子等を修め、一方身体の鍛錬と共に武士的精神を鼓舞したものである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)